

第一節 ギリシア人とリュディア人

リュディアへの関心

リュディア王国

Will の評価：一種の妥協の上に成り立ち、互いに満足のいく状態にあった

サッフォー：Sappho F 218 (96) 1-9.

アルキロコス：Archiloch. 15.

ソロン：Hdt. 1. 30-33; Plut. *Solon*, 27.

アルクメオン（アテナイの）：Hdt.6.125.

ペリアンドロス：Hdt.1.20.

スパルタ：Hdt.1.70.

リュディア王国の滅亡：Hdt.1.85-87.

ナボニドスの年代記：S. Smith, *Babylonian Historical Texts* (London 1924) 116.

クロイソスの救命：Hdt.1.87.

Bacchylides, *Epinicia* 3.23-62.

ルーブルのミュッソンの壺絵：J. Boardman, *Athenian red figure vases: The archaic period*, (London 1996^{repr.}) n.171.

ギリシア人のクロイソスへの関心の高さ：藤縄健三、『歴史の父 ヘロドトス』,新潮社,1989年,36-37頁。

リュディアとギリシア人の関係

奇妙な矛盾：メルムナス朝リュディアによる小アジア沿岸のギリシア諸都市の征服と
本土のギリシア諸都市との友好関係の模索

リュディア王による侵略

スミュルナやエフェソス：破壊と従属

ギュゲス：メルムナス朝の始祖

侵略戦争を始める

サデュアッテス：ミレトスとの戦争を始める

アリュアッテス：スミュルナ占領・クラゾメナイ侵攻

クロイソス：最も露骨に戦争を仕掛ける

イオニアとアイオリスの全ての都市を「様々な言いがかりをつけて攻撃した。
重大な理由の見つかる時は、それを持ち出すのであるが、時にはとるに足らぬ口
実を盾にする事もあった。」(Hdt. 1.26)

ハリュス河以西の小アジアの住民は、キリキア人とリュキア人を除いて、クロイ
ソスの支配に服する (Hdt. 1.28.)

本土のギリシア人との友好的関係

デルフォイ：莫大な奉納 (Hdt. 1. 13-14. 19; 25. 47-55.)

島嶼部のギリシア人と友好条約 (Hdt. 1.27.)

コリントスのペリアンドロス (Hdt. 3. 48.)

スパルタ (Hdt. 1. 69-70.)

政治的打算：親リュディア世論の情勢

小アジアのギリシア人の矛盾：リュディアの脅威に対して団結することなし

ミレトス：キオスを除いて援助せず (Hdt. 1. 18.)

キオスの理由 (*Ibid.*)

多くのギリシア人の訪問

ギリシア人を惹きつけたもの

政治的理由

サルディアの富

職人や芸術家に対する需要

傭兵市場

華やかな宮廷文化

ギリシアの全ての賢人の訪問 (Hdt. 1.29.)

ソロン・アルクメオン・ビラス・ピッタコス

アナカルシス

ペリアンドロス

リュディア王からの働きかけ

メルムナス朝の外交の底流

ギュゲス：リュディア人の不満抑制の為にデルフォイの神託利用 (Hdt. 1. 13.)

ギリシア人の中での評判重視＝世論操作

内紛回避のためにデルフォイ利用 (Hdt. 1. 13.)

アリユアッテス：眼病についてデルフォイに相談 (Hdt. 1. 19.)

クロイソスによるアイソポス派遣 (Plut. *Septem sapientium convivium* 4(150A))

スパルタへの同盟申し入れ (Hdt. 1. 56.)

トルナクスのアポロン像作成に黄金提供 (Hdt. 1. 69.)

対ペルシア戦に際してデルフォイに相談 (Hdt. 1. 53-55.)

政治的計算

アルカイオスの事例 (Alcaeus, F 116(69).)

ギリシア人とリュディア人の長い歴史的背景の存在

ジョージスの見解 (Pericles Georges, *Barbarian Asia and the Greek experience: from the archaic period to the age of Xenophon*, (Baltimore & London, 1994) 13.)

縁戚関係の存在

カリア人に対する共通の利害